

# 寺報

No.705

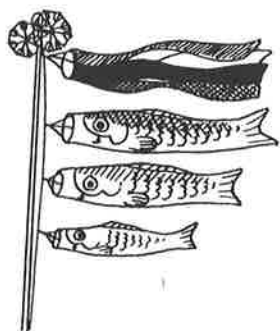
令和8年5月

蓮華寺  
發行

## 御聖訓

苦をば苦と悟り、楽をば楽とひ  
 らき、苦楽共に思い合せて南無妙  
 法蓮華經とうち唱へ居させ給え。

『四條金吾殿御返事』



### (解説)

最近はお葬式をやらないとの考えから、身内が亡くなると、お寺に知らせず、そのまま火葬し、直接お墓に埋葬する人達が増えてきているそうです。

その方が、長年生きてきた時の思い、考えを無視し勝手な判断をしてはあまりにもかわいそうです。

お釈迦様は、例えその人の身体がなくなつたとしても、その心が苦しみを断ち切れていない限り、楽になる事は決してないと教えています。

ですから、亡くなられた方にはこの世との思いを断ち切る為に、しっかりと引導を渡してもらい、辛い苦しい思いから解放させて上げ、安らかな気持ちで旅立つてもらいたいのです。

亡くなった方を供養し、心を安らかにして上げる事で、自分自身の心もまた安穩になつていくのです。

日蓮大聖人は、我々は様々な因縁によつて今ここに生を受けたのだから、その命をつないでくれた両親や先祖を大事にして欲しいと念願しています。

その為にお題目をしつかり唱えて戴きたいのです。

五月十三日(水)

午後一時より

於：大本堂

# 釈尊御降誕会 (花まつり)



- \* お釈迦様のお誕生日、甘茶の日です。
- \* 皆様で、甘茶をかけお祝いしましょう。
- \* お供物も受け付けています。

## 『お釈迦になる』とは？

物がこわれた時に、江戸の昔には、よく『あーおしゃかになっちゃった』と叫びたそうです。この言葉は、特に鉄などから器を作る鑄物業者いものの間で使われていたみたいです。それは、鑄物を作る時の火が強すぎる事を、お釈迦様の誕生日の【四月八日】にシヤレたのだといわれています。

つまり「火が強か」(ひがつよか)を「四月八日」(しがつようか)と語呂合わせしたものと思われます。江戸っ子は【し】と【ひ】がうまく発音出来なかったからかも知れません。

でも、失敗した時の言い方です。また、よく死んだ人の事を「仏様になった」といいますが、その仏様の(大親分)がお釈迦様だから、それを引用して「あーあ、あいつもついにおしゃかになっちゃめえやがった」というようになったとの説もあります。

いずれにしても、お釈迦様にとりましては、あまり良し使われ方ではなかつたようです。

## 檀信徒研修会のお知らせ

☆五月二十三日(土)

聖典の読誦と唱題行

担当：・・住職上人

\* 『聖典の読誦 (三十分) と唱題行 (三十五分)』  
 ☆お題目は七百回以上唱えられます。

時間：午後七時より

場所：小本堂【イス席です】

持参品：聖典(事務所にて)・数珠

\* 月一度の修行ですので、どうか皆様もこの機会を逃さず、お経とお題目を大きな声を出して心から唱えましょう。

\* ご自分の修行の為、懺悔滅罪(反省)の為、家族や友人の為、また仏様や先祖の供養の為、と各々の各自の目標に向い頑張つて修行して下さい。

蓮華寺

## 最高の教え法華経

## 七面天女

身延山のご草庵から少し登った所に、大きな石があり、その場所で日蓮大聖人がいつも教えを説いていますと、この辺りでは見かけない年若い美しい女性が熱心に聴聞に來ていました。

その光景に不審に思うのを感じ取った日蓮大聖人は、その女性に「今こそ皆に本当の正体を見せてやりなさい。」と告げ、清水が入った花びんを渡しました。

いわれた通り、女性が水を一滴手のひらに落とした時たちまち、その方は『龍』のお姿に身を変じました。その後、身を人間の姿に戻した女性は、「私はこの上の七面山に住む【七面天女】と申します。

日蓮大聖人のみ教えに感動し、今から身延山を護る法華経の守護神として、これからお題目を唱える人々に心の安らぎと満足を与え、そして身延山の鬼門(北東)を護ります」とお誓いになりました。

後に、お弟子や信徒が七面山に登詣し、お堂を設け【七面天女】をお祀りになったといわれます。

蓮華寺では、七面様は寺院創設の頃から信仰され、江戸時代の延宝六年(一六七八)には、既に『七面堂』が建立されたと寺歴に書かれています。

「新任の挨拶」  
 「廣布山 蓮華寺」 徒弟  
 『角田堯現』



この度、東京での大学生活を無事に終え帰って参りました『角田堯現』と申します。  
 私は蓮華寺第二十九世『角田堯淳』上人を父に持ち、蓮華寺にて育った為、幼少期から仏具に触れたり、法要を見たりと長きに渡って僧侶という存在を身近に感

じて参りました。

小学校四年生から三年間は夏休み中に東京のお寺での修行に参加し、それを機にお盆の棚経のお手伝いや法要に出仕するようになり、そのあたりから「自分は僧侶になるんだ」という自覚を持ちはじめました。

中学生になると部活動のバスケットボールに熱中しコーチ陣の厳しい指導のもと、先輩後輩の在り方を学び、今となつてはその時の学びが如何に大切なものであつたのかを痛感致しております。

高校生になり【立正大学】に進む事は決まっていたものの、住む場所を探している際に、御縁のあるお上人から（宗立学寮）という日蓮宗宗門が運営する寮を紹介して頂きました。他にも修行しながら、大学に通える修行機関はあるものの、様々な条件を照らし合わせたところ、自分自身に合っているのが学寮でした。一番の決め手としては、大学の長期休暇に合わせて地元へ帰省できる点です。そのお陰もあり、年に二、三回程は檀信徒の皆様とお会いし、お元気そうなお姿を拝見させて頂き、そこから私も元気をもらい、東京に戻って再び修行に励むことができました。

『朝のお勤め』のススメ

当山では、毎朝午前六時半より『朝勤会』を執り行っています。  
 時間は、大本堂く小本堂く位牌堂を回りまして、約一時間十分となっています。

聖典【お経本】を最初から順序よく読んでいきますので、どうぞご一緒にお読み下さい。

初めは難しいでしょうが、繰り返し事で段々慣れてくると思われますので、一生懸命頑張ってみましょう。

また、朝勤会に毎月の『祈願・供養』を申し込まれている方には、特に朝参りをお勧め致します。

唯、お寺にお願いするのだけではなく、少しでも時間を見つけて、自らが参拝する事が大事なのです。

そしてご自宅では中々出せない大きな声で、「法華経」「懺悔文」「お題目」を唱え、祈願・供養などの願い事が早く成就するようにと、集中してご祈念して下さい。

イス席で行っています。

④朝の『祈願・供養』・一件、一ヶ月三千円です。

私が在学していました【立正大学】は、日蓮宗の僧侶を育てる（檀林）といわれる学校が起源であり、ここから発展し今となつては多くの学部を持つ総合大学です。その中の仏教学部は日蓮宗の僧侶を目指すものがほとんどで、当山住職はじめ先輩僧の方々も同学部卒業でございます。

ですから大学に通いながら、へ日蓮宗宗立堀之内学寮で、僧侶を目指す者たちと共に、勉学と、僧侶としての基礎を習得すべく修行をしております。

寮では、全国各地から集まりました仲間たちと衣食住を共にし、多くの人と出会い、更に多くの貴重な体験をすることができました。

しかし、私が習ってきたものはあくまでも基礎となるベースであり、僧侶の在り方はそのお寺や地域によつて異なるものです。ですから住職はじめ先輩僧侶の方々日々の法務を見て聞いて、そこから学び少しも早く一人前になれるように精進を重ねて参りたいと思います。

檀信徒の皆様、若輩者ですが今後ともどうぞよろしくお願い致します。

# 「新任の挨拶」

私は『西<sup>にし</sup>埜<sup>の</sup>永<sup>えい</sup>真<sup>しん</sup>』と申します。

静岡県沼津市戸田にご住ります

【妙法山 蓮華寺】より参りました。



平成十五年四月二日生まれ、満二十三歳になりました。

幼少の時より、地元の海水浴場で遊泳を楽しんでおられますので、泳ぐのが得意です。しかし、二十年に一度雪が降るか降らないかの土地に住んでいましたので、雪とは無縁です。そのため、この青森での生活はとても新鮮なものになると感じています。

また大学一年生から日蓮宗宗立の学寮にて、四年間僚友と共に、研鑽の日々を過ごしました。

そこで、新年度に初めてできた友人が【廣布山蓮華寺】からやってきた『角田堯現』上人でありました。何気ない会話の中から、どんどんと発展していき、最終的に【廣布山蓮華寺】の山務員としてお勤めさせていただけることとなりました。

昨年の夏に、お盆の棚経や普段の法事などのお勤めを体験させていただき、令和八年四月より正式にお勤めさせていただいております。

まだまだ未熟者ですが、ここでの生活を通して、経験を重ねて成長し、一人前になれるように頑張りますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

## 五月の行事

一 日(金) 盛運祈願会 午後一時より

- ・ 毎月のお守り【霊神符】の交換の日です。
- ・ 必ずお勤めに参拝し、お題目とお経を唱え、感謝の気持ちを込めてお守りを交換しましょう。
- ・ 聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。



十三日(水) 日蓮大聖人のご命日 午後一時より

- ・ お経 (如来神力品第二十一(訓読・日本語読み) 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み))
- ・ どなた様も、大聖人への御報恩を忘れずに参拝しお題目とお経を唱えましょう。

十三日(水) 釈尊降誕会【花まつり】 午後一時より

十九日(火) 龍神様・七面様大祭 午後一時より

二十三日(土) 檀信徒研修会【唱題行】 午後七時より

## ☆奉仕のお知らせ

十三日(水) 花まつりの準備とお手伝い

- ◎ 教宣部男女・・・午前十一時より
- ※『花まつり』の行事は、大本堂で十三日講のお勤めの中で執り行われています。
- どうぞ、ご参拝かたがたお手伝いをよろしく願い致します。

十九日(火) 龍神様・七面様大祭の準備とお手伝い

- ◎ 教宣部男女・・・午前十時より
- ※当山客殿に於きまして、祭壇を設けて、行事を執り行いますので、お手伝いをよろしくお願い致します。

教宣部長・杉淵昌三

## ☆十三日(日蓮大聖人の月命日)の

### お勤めには必ず参拝しましょう!

毎月十三日 午後一時より

## 日常の中に仏世界

# 龍神様・七面様大祭

五月十九日 (火)

午後一時より

於：蓮華寺客殿



七面天女

- \* 龍神様・七面様の御神体ごしんたい、掛軸の御法楽 (二千元)
- \* 一般御法楽 (千元)、祈願 (八百円)
- \* お供物も受け付けています。
- \* 祈願・御法楽をお申込みの方にお札ふだを差上げます。